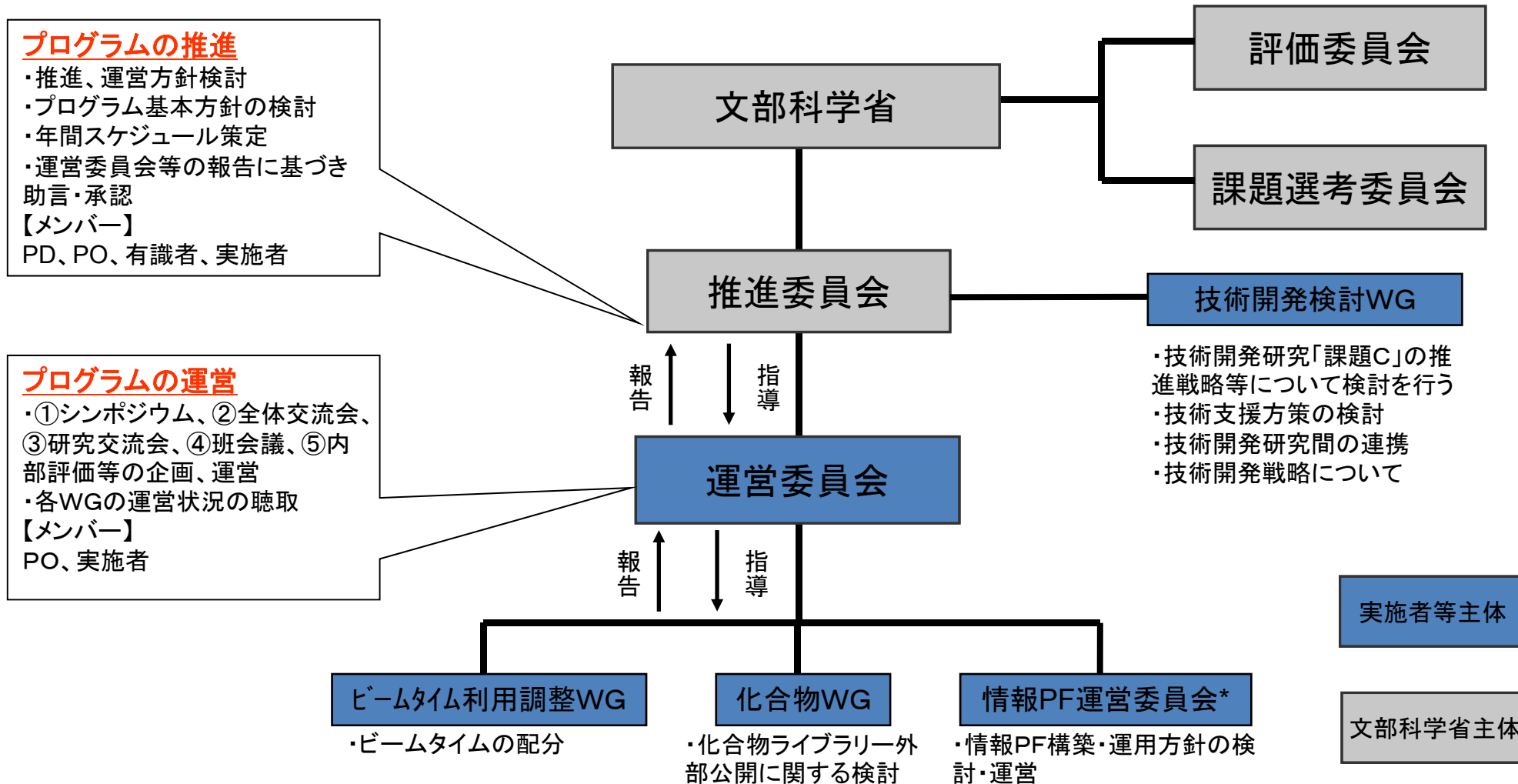


ターゲットタンパク研究プログラム推進体制



PDCAサイクルを着実に実施するため、①毎年度の全課題を対象とした成果発表会におけるヒアリング等の実施、②運営委員会による詳細な内部評価の実施、③サイトビジットなどを通じたPD・POによる進捗状況の把握等により、次年度以降の資源配分等を含めた研究計画の見直し等を行い、適切なプログラムの運営を行った。

ターゲットタンパク研究プログラム推進委員会委員名簿

(敬称略:五十音順)

委員名	所属・役職
植田 弘師	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科・教授
五條堀 孝	情報システム・研究機構国立遺伝学研究所・副所長
笹月 健彦	国立国際医療センター・名誉総長
嶋田 一夫	東京大学大学院薬学系研究科・教授
菅原 秀明	情報・システム研究機構国立遺伝学研究所・特任教授
高柳 輝夫	第一三共株式会社・常勤監査役
田中 隆治	サントリーホールディングス株式会社・顧問／技術監
月原 富武	兵庫県立大学大学院生命理学研究科・特任教授
中島 春紫	明治大学農学部・教授
長野 哲雄	東京大学大学院薬学系研究科・教授
藤吉 好則	京都大学大学院理学研究科・教授
◎ 別府 輝彦	東京大学名誉教授
横山 茂之	理化学研究所生命分子システム基盤研究領域・領域長
米田 悦啓	大阪大学大学院生命機能研究科・教授
若槻 壮市	高エネルギー加速器研究機構物質構造科学研究所・教授
◎ 委員長	

ターゲットタンパク研究プログラム運営委員会委員名簿

(敬称略:五十音順)

	委員名	所属・役職
	岩田 想	京都大学 大学院医学研究科・教授
	植田 弘師	長崎大学 大学院医歯薬学総合研究科・教授
	北 潔	東京大学 大学院医学系研究科・教授
	菅原 秀明	情報・システム研究機構 国立遺伝学研究所・特任教授
○	田之倉 優	東京大学 大学院農学生命科学研究科・教授
◎	月原 富武	兵庫県立大学 大学院生命理学研究科・特任教授
	中島 春紫	明治大学 農学部・教授
	長野 哲雄	東京大学 大学院薬学系研究科・教授
	福井 宣規	九州大学 生体防御医学研究所
	別府 輝彦	東京大学・名誉教授
	横山 茂之	理化学研究所 生命分子システム基盤研究領域・領域長
	米田 悦啓	大阪大学 大学院生命機能研究科・教授
	若槻 壮市	高エネルギー加速器研究機構 物質構造科学研究所・教授

◎：主査、○：副主査

ターゲットタンパク研究プログラムPD・PO名簿

PD・POによるマネジメント

- POごとに担当分野・領域を設定し、PDがそれらを総括する体制でプログラム全体の進捗状況や検討すべき課題を常に把握。
- PD・POが中心となって年度ごとに内部評価を実施することにより、研究課題の見直し案や研究実施者の要望に基づく提言等を文部科学省、推進委員会及び運営委員会に適切に伝え、効果的、効率的な事業運営に活用。
- 実施者全体に対してリーダーシップを発揮して研究開発の推進やプログラム内外の連携に貢献した。

PD (プログラム・ディレクター)

(敬称略:五十音順)

別府 輝彦 東京大学・名誉教授

PO (プログラム・オフィサー)

植田 弘師 長崎大学 大学院医歯薬学総合研究科・教授

月原 富武 兵庫県立大学 大学院生命理学研究科・特任教授

中島 春紫 明治大学 農学部・教授

米田 悦啓 大阪大学 大学院生命機能研究科・教授

2. ターゲットタンパク研究プログラム 成り立ちと、その推移

ターゲットタンパク研究プログラムの成り立ち

タンパク質研究戦略推進作業部会報告書(平成18年6月、ライフサイエンス委員会)

タンパク3000プロジェクトにおいては、解析そのものがより困難で複雑なもの、中でも医学・薬学・生物学等において重要な役割を果たすタンパク質への挑戦が今後の課題である。したがって、新しいプロジェクトにおける解析のターゲット選定については、個々の解析研究者の関心だけでなく、医学・薬学から環境、食品などの応用分野を含んだ幅広いライフサイエンスの研究に携わる研究者の視点から設定され、科学的に精選重点化が図られる必要がある。

タンパク3000プロジェクト事後評価(平成19年8月、ライフサイエンス委員会)

構造解析されたタンパク質数は当初の目標を大きく上回る成果をあげた。ほぼ同時期に実施された米国の第一次PSI計画に比べて3倍近くのユニークドメイン構造を解明し、また複合体のような難易度の高い巨大タンパク質を多数解析するなど国際的な比較においても優れた成果をあげている。一方で、膜タンパク質等は、重要なタンパク質であるにもかかわらず、難易度が高いために、いまだにほとんど解析が進んでいない。



これらを踏まえて、ターゲットタンパク研究プログラムの在り方を検討。
また、タンパク質研究プロファイル委員会でターゲットタンパク質を選定。

ターゲットタンパク研究プログラムの事業目標

重要な生命機能を担うタンパク質ネットワーク群の作用機序の解明

これまでに得られた成果や基盤等を活用しつつ、学術研究や産業振興に重要なタンパク質をターゲットとし、それらの構造・機能解析に必要な技術開発と研究を行う。これにより、生命現象の統合的理解、医学・薬学等の産業への貢献、並びに構築した基盤のより広い分野の研究、産業へ波及効果を与えることを目指す。

タンパク質研究プロフィール委員会 名簿

平成18年10月から12月に全4回開催し、学術研究や産業応用に資する重要なターゲットタンパク質を選定。

門脇 孝	東京大学大学院医学系研究科・教授
上野川 修一	日本大学生物資源科学部・教授
五條掘 孝	国立遺伝学研究所生命情報・DDBJ研究センター・センター長
○ 笹月 健彦	国立国際医療センター・総長
鈴木 昭憲	東京大学・名誉教授
高井 義美	大阪大学大学院医学系研究科・教授
田中 勲	北海道大学大学院先端生命科学研究院・教授
月原 富武	大阪大学蛋白質研究所・所長
豊島 近	東京大学分子細胞生物学研究所・教授
長野 哲雄	東京大学大学院薬学系研究科・教授
成宮 周	京都大学医学部・部長
藤吉 好則	京都大学大学院理学研究科・教授
横山 茂之	東京大学大学院理学系研究科・教授、理化学研究所ゲノム科学総合研究センター・PD
世話人	
田之倉 優	東京大学大学院農学生命科学研究科・教授
田仲 昭子	理化学研究所 タンパク質構造・機能研究グループ・チームリーダー

○:主査

ターゲットタンパク研究プログラム 課題選考委員会（事業開始時）

伊藤 菁莪	協和メディックス株式会社・代表取締役社長
桐野 豊	徳島文理大学・学長
五條堀 孝	国立遺伝学研究所生命情報・DDBJ研究センター・センター長
笹月 健彦	国立国際医療センター・総長
嶋田 一夫	東京大学大学院薬学系研究科・教授
高柳 輝夫	日本製薬工業会研究開発委員会・委員長
月原 富武	大阪大学蛋白質研究所・所長
永井 美之	理化学研究所感染症研究支援センター・センター長
中島 春紫	明治大学農学部・助教授
成宮 周	京都大学大学院医学研究科・研究科長
藤吉 好則	京都大学大学院理学研究科・教授
○ 別府 輝彦	日本大学大学院総合科学研究科・教授

○:主査

ターゲットタンパク研究プログラム 課題選考委員会（追加公募時）

- | | |
|---------|------------------|
| 植田 弘師 | 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 |
| 田中 隆治 | サントリー株式会社 |
| 月原 富武 | 兵庫県立大学大学院生命理学研究科 |
| 中島 春紫 | 明治大学農学部 |
| 長野 哲雄 | 東京大学 大学院薬学系研究科 |
| ○ 別府 輝彦 | 東京大学 |
| 横山 茂之 | 東京大学 大学院理学系研究科 |
| 米田 悦啓 | 大阪大学大学院生命機能研究科 |
| 若槻 壮市 | 高エネルギー加速器研究機構 |
| ○ 主査 | |

ターゲットタンパク研究プログラムの推移

平成19年度	事業開始	事前評価等の評価結果や指摘を踏まえ、事業を開始。
	↓	
平成20年度	フォローアップ (総合科学技術会議)	【指摘事項】 ①3年で終了する課題の延長等について柔軟な対応が必要 ②当初の公募で充足できなかった2つのターゲットについて適切な対応が必要
	↓	
平成21年度	追加公募実施	フォローアップにおける指摘を受けて、不足していたターゲットについて公募を実施し、採択課題を追加(フォローアップ指摘事項②)
	中間評価(文科省) 事業仕分け (行政刷新会議)	外部有識者から構成される評価委員会による評価(進捗等確認) 【指摘事項】 評価・検証が不十分であり、予算の縮減(2割～半額)が必要との指摘
	↓	
平成22年度	課題の精査と絞込み	フォローアップと事業仕分けを受け、中間評価結果やPD、POからの報告等を踏まえて課題を精査し、予算を縮減(50→43億円、事業仕分け指摘事項)するとともに課題を整理し、3年で終了予定であった課題の延長、他の課題との統合を実施。(フォローアップ指摘事項①)
	↓	
平成23年度	整備した基盤の外部解放	総合科学技術会議による優先度判断や文科省のライフサイエンス委員会等からの意見(整備した基盤をプログラム内外の研究者が広く利用できるようにすべき)を受け、「技術開発研究」については「創薬等支援技術基盤プラットフォーム」と位置づけ、外部解放を推進する補助金事業として新しく開始。